

JISS

The Japan Institute of
Scandinavian Studies

スウェーデン社会研究会報

No. 313
2000/1

発行所 社団法人スウェーデン社会研究所 〒105-0013 東京都港区浜松町1-8-1 (株)科学新聞社内5階 TEL03(5776)1835/FAX03(5776)1836
発行人 松元さきり Publisher&Editor Sagiri Matsumoto 編集責任者 岡沢憲美 Editor in Chief Norio Okazawa
デザイン ワンバイワンステーション 印刷所 東友印刷 2000年1月25日発行 No. 313



Photo 中嶋千絵 (dill.com)

新年のご挨拶/JISS講演会 アルフレッド・ノーベルとノーベル賞の舞台裏/第2回 日本-スウェーデン、環境経営課題国際ワークショップ開催/小説「移民」/
MUSIC/SPORTS/MOVIE/インフォメーション

Message for the New Year



新年のご挨拶

会長 松前 達郎

President Dr. Tatsuro Matsumae



世界規模の動乱の多かった1900年代も終わり、いよいよ新たな2000年代を迎えました。1900年代とは違って変わる平和な時代となることを祈っています。それには何といても電気通信、情報技術が貢献し物理的に国境を感じさせなくなったことが大きいと思います。スウェーデンは電気通信の最先端国であり日本もそれに比肩するところまで来ております。日本・スウェーデン両国は戦争を放棄する政策をとっており相協力し世界平和に貢献したいものです。

当スウェーデン社会研究所もスウェーデンセンタービルの地域再開発により新事務所に昨年移転、内部態勢も刷新し新発足の上皆様のご期待に応えるよう努力中であります。

昨年は日瑞政府間で初めて科学技術交流協定が結ばれ、スウェーデンの科学技術大臣が来日され新たな両国間の提携が期待されます。また、来年2001年はノーベル賞授賞開始100年となります。ノーベル賞が第一次二次にわたる世界大戦の渦中に入りながらも連綿と続けられ世界最高の権威ある賞と国際的に認知されるようになったのも科学や文化に国境を設けず政治・経済に中立を貫いたからともいえます。

当研究所も文化・経済等と共に科学・技術面等幅広い日瑞間の友好交流につとめる所存です。皆様方からのご提案、ご支援、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

J I S S 講演会

Alfred Nobel and the Nobel Prizes

アルフレッド・ノーベルとノーベル賞の舞台裏

瑞日基金事務局代表 津金レイニウス豊子

Mrs. Toyoko Reinius Tsugane



講演者 津金レイニウス豊子氏

◆生立ちと人格

アルフレッド・ノーベルは1833年10月20日にストックホルムで生まれました。アルフレッドの先祖の中には、16世紀のスウェーデンの強国時代にOlof Rudbeck The Elderという技術的に天才的な才能を持つ人がおり、彼は医学者・植物学者・歴史家・作曲家・建築家・エンジニアとして膨大な功績を残した人でした。また、アルフレッドの父も建築家・建築業者・産業家として目覚ましいスタートを切った人でした。アルフレッドの影であまり知られてはいませんが、彼の兄弟たちも大変すぐれた企業家でした。けれど、こうした優秀なノーベルの家族も、人生の浮き沈みから逃れることは出来ず、アルフレッドが生まれたまさにその年に逆風が吹きました。つまり、父であるイマニュエルが倒産してしまっただけです。けれど、決して諦めない不屈の精



ストックホルム・市庁舎前庭

神で、次から次へと新しい技術的な実験プロジェクトに取り組んでいました。そして、遂に家族をスウェーデンに残したまま、ロシア軍のために対地雷を製造するための作業場を立ち上げるためにペテルスブルグへと向かいました。当時のノーベル家については、母のアンドリエッタが家族を支えるためにミルクや野菜を売るための小さな店を出し、息子たちは生活費の足しにとマッチを売って歩いたという逸話さえ残っているそうです。

そして、1842年、アルフレッドが9歳の時に、父親の事業が成功して経済も好転した結果、家族はペテルスブルグに引っ越します。そこで、今度は、当時の典型的なブルジョアの生活を謳歌することになります。ペテルスブルグは偉大なヨーロッパのメトロポリタン(中心地)で、文化・科学が盛んで華々しい社交が繰り広げられていたそうです。そしてこの地においてノーベル家の子息たちは、学校に行く代わりに、大学教授などの錚々たる肩書きの家庭教師について教育を受けていました。そしてその内容は、人文科学・自然科学の双方に及び、語学も、スウェーデン語に加えてロシア語・フランス語・英語・ドイツ語の教育をうけ、更に、文学や哲学も学びました。実はアルフレッドは若かりし頃に作家になることを望んでいたのです。特にイギリスの詩人シェリーやバイロンを大変好んでいたそうです。彼の書く英語は、お気に入りだったバイロンやシェリーの文体を思い起こさせる文体だったと言われています。詩人

になる夢は途中で諦めなければならなくなりましたが、生涯を通して詩や散文の執筆を続けていました。晩年の63歳の時に「ニメーシス」と題する脚本を出版しました。彼自身が人生の終末に近づいていることを感じ取り、自分自身のために作家になりたかった若かりし日の夢を満足させたかったためだと考えられています。ですから、科学者・発明家であったアルフレッドが遺言で文学賞を入れていた事は、ごく自然の流れだったのです。アルフレッドは知りうる全ての言語で読書を貪ったと申しあげましたが、遺言を書いているときには、特に皆さんも良くご存知のセルマ・ラーゲルレーヴを特に集中的に読み進んでいました。彼女の著作「ニルスの不思議な旅」は、大江健三郎さんが文学賞をお取りになったときに彼が子供時代に影響を受けた著作の一つとして言及されて日本でも広く知られるところとなりましたが、アルフレッドが文学賞の選考基準の中で「理想主義的傾向の」と言及しているとき、彼の思いの中には、セルマ・ラーゲルレーヴがいたと考えられています。そして、彼女が文学賞を受けた最初の女流作家となったのです。こうしてアルフレッド・ノーベルはその人生の基礎を形成するうえで最も重要で多感な時期を、当時のロシアの首都で過ごしたわけですが、この頃既に彼は学習した5ヶ国語を非常に高度に使いこなし、世界主義いわゆるコスモポリタニズムへの土台・基礎を作り上げていたのです。このことが後に世界で最初の民間の国際賞であるノーベル賞を創設するための遺言を残すという結果に繋がって行くのです。

◆発明家として、そして一人の男性として

1867年の34歳の時に、彼の名を歴史に止める事に成るダイナマイトを発明しました。このダイナマイトという命名も、彼自身がギリシャ語でパワー・力を意味するこの言葉を選んだものさそうです。ダイナマイトは、現代に生きる私たちには大量殺人のための武器というイメージがあるかもしれませんが、この発明が近代産業の発展に果たした役割は多大なものがありました。それは、鉄道、港湾、鉱山、架橋、トンネルなどに果たした役割をお考え頂ければおわかり頂けると思います。一枚岩の上に乗っているようなスウェーデンの地理をお考え下さい。道を開くにも港を造るのも鉄道を引くにも、岩を砕く事なくしては不可能でしたし、ダイナマイトによってスウェーデンは近代的な工業国に姿を変える基盤インフラストラクチャーを整えることができたのです。けれど、彼の成功の背景にあるのは、天才的な発明の才能だけではありません。企業家であり産業界のリーダーでもあったわけですから。彼はパテント企業を作るために全ての工場を合併し、さらにパテント企業を現代用語でいうとコンサーン合同企業体へと合併していくという、進取の気性に富む人でもあったわけですから。そして、彼の死の当時、このようなコンサーンが各国に20社あり、世界各国に数百の工場を所有していました。これはまさに、彼が一つの発明では決して満足せず、尽きる事のない好奇心で自分の発明を常により良いものにしようと努力し続けていた結果です。また、先見の明に優れ、時代の流れを読

み取り、何がこれから必要とされてくるかどうかということに敏感に察知していました。

こうして彼は多大な富と名声を得、様々な名誉や賞を受ける事は彼の日常の一部となっていきました。けれど、彼自身は自分自身や名声を突き放して、非常に健全な距離を置き、金銭にも執着しませんでした。また、大勢が集まる社交の場を嫌い、贅沢や取り巻きにうつつを抜かしたいという望みなど持った事もない人物でした。その一方で母や兄弟たちとは常に親密な関係を保ち甥や姪たちのことも常に気にかけるような面を持っていましたが、この億万長者が家族を持つ事はなく、一生涯実質的には独身を通しました。けれど、恋愛の経験が全くなかったというわけではないのです。まだ若かりし頃にパリに滞在していた時、薬局の助手として働いていたスウェーデン人の女性に恋をしたそうですが、彼女はまもなく肺炎で死亡してしまいました。そして、アルフレッド43歳の時に、彼が女性に望んでいた全ての資質を持ち合わせている理想の女性に出会いました。彼女の名前はベルタ・キンスキーといい、彼の私設秘書として雇われた女性です。その語学力・知性・文学への関心・洗練された身のこなしといい、知的で成熟した理想の女性で、彼女とは、同等の人間として議論をする事ができました。そして彼は明らかに彼女に魅了され、一生の中でたった一人の底から結婚を望んだのは彼女だけだったといわれています。けれど、彼女がオーストリア人男爵フォン・ズットナー氏と結婚するためにアルフレッドの元を去って行ってしまった事で、アルフレッドはもう女性に心を開く事はなくなりました。一方で、男爵夫人となったズットナーとの友情は続き、彼女の平和活動を影から経済的に援助をし続けました。

ノーベルが平和賞を設立した背景には、大量殺人が可能な武器を発明した事への良心の呵責があったからだとよく言われますが、少なくとも出発点ではなかったはずですから。というのは、彼の生存中に戦争で使用された事はないからです。確かに、ダイナマイト製造の実験中に最愛の弟エミールが事故死したり、兄のロードヴィックの死亡広告に誤ってアルフレッドの名前が載り、そこで「死の商人」と記されていた事にひどく打ちのめされたことも、平和賞の切っ掛けの一つといわれます。けれど、やはり、ズットナー男爵夫人との出会いと友情が、彼の平和への希求を更に刺激したと考えられます。すこしナイーブかもしれませんが、夫人との議論のなかで、アルフレッドは、「どんな平和会議よりも彼の工場の方が、遥かに早く戦争に終止符を打つ事が出来るだろう、なぜなら、互いに一瞬の内に相手を消滅させる事が出来る同等な力を持っている事がわかれば、どんな文明国家も軍隊を引き上げて解散してしまうだろう」と語ったといわれます。そして、当のズットナー男爵夫人は、1905年に平和賞を受賞しました。

1871年には終の棲家にすべくパリのマラコフ通りに巨大な邸宅を購入して、ここで沢山の重要な実験や発明をしました。けれど、ある事情でパリを去る事を余儀なくされ、1890年にはイタリアのサンレモ市に引っ越し、そこで1896



パリの街並み

年12月10日に脳溢血が原因で63歳の生涯を閉じました。この死の当時、アルフレッド・ノーベルは355の патент、20ヶ国約90箇所に関連企業を持っていました。その遺産たるや巨大なもので、これがノーベル賞創設の基盤となる基金となったわけです。

では、何故この莫大な遺産をすべて投げ打つアイデアに行き着いたのでしょうか。先程もお話しましたが、アルフレッドはお金に固執する事がなく、逆に、相続した膨大な富は人間を冷淡にさせる不幸を招くだけだと見ていました。ですから、この献金の構想はまったく突然のものではなく、この事について長い間考えあぐね、何回も遺言を書き直しました。そして、最後の遺言は1895年11月、死の一年前にパリのスウェーデン・ノルウェークラブで書かれました。長年の企業活動の間に、弁護士や法律家に対する不信を募らせていたアルフレッドは、彼らの助けを一切受けずに書き上げました。

この遺言が1895年に書かれた事を考えてみてください。日本の歴史で言えば、日清戦争が終結して、日露戦争に向けて富国強兵を掲げていた頃です。この頃既に国境を超えて人類に最大の貢献をもたらした人物に与える〈人類の未来を見つめる国際賞〉の創設を意図していた一人の科学者がいたのです。ノーベル賞の素晴らしさの理由のひとつとして、この点を挙げる事ができます。そして、ノーベル財団が設立され、ほぼノーベルの遺志通りに創設されたノーベル賞は、世界的な威信を持った民間が設立した国際賞として今日に至り、一世紀もの間存続している事実、第二の素晴らしさがあると思います。

◆ノーベル賞の舞台裏

皆さんは、このような国際的な賞を毎年出しているノーベル財団はさぞかし大きな組織だろうとお思いになるかもしれませんが、実際は、驚くほど小さな財団で、財団専務理事以下常勤の職員は4~5人程度です。それは、財団の最大の任務が、先程お話したように、ノーベルが残した遺産を有効に運用する事のみ関わっているからです。

皆さんはお気づきかもしれませんが、ノーベル賞の式典は毎年12月10日と決まっています。つまり、ノーベルの命日です。友人や親戚に見守られながら死を迎える事を望みながら孤独の中で死んでいったノーベルのために、遠くから毎年親しい人たちが集まってきて命日を過ごしているようなそんな雰囲気です。

では、最も中心的なイベントである授賞式と晩餐会を簡単にご紹介しましょう。12月10日の授賞式は、ノルウェーのオスロ市庁舎で行われる平和賞授与式以外は、ストックホルムのコンサートホールで行われます。いずれも正装する事が義務づけられています。授賞は第一回目から変わらず遺言通りの順番で、物理学賞・化学賞・生理医学賞・文学賞・平和賞そして1969年からは経済学賞も加わって授賞が行われます。この会場を飾る生花は、ノーベル最後の地だったイタリアのサンレモ市から毎年トラックで直送されて来るものです。この時、受賞証書のほかに小切手、賞の寄贈者であるノーベルのレリーフを施した金のメダルが手渡されます。

授賞式の後、会場をストックホルム市庁舎に移し、クライマックスといえる晩餐会になります。この晩餐会には、〈こっそり〉とか〈飛び入り〉で出席する事は不可能です。招待客は1288人と決められており、しかも一人一人それぞれ席順が決められて名札が置かれていますし、入り口のチェックも厳重です。この晩餐会には沢山の方々が関わっていますが、中でも印象的なのは、学生の関わりです。日本だったら考えられないかもしれませんが。ノーベル財団では、未来の科学者・文学者・平和の探求者となる学生たちに来るだけこうした国際的な雰囲気の中で知識人に会う機会を与えようと意識的な配慮をし、毎年招待客の250席は学生のために確保してあります。そして、その選択方法はあくまでも民主的で、応募した学生の中から抽選で選ぶのです。晩餐会の中の司会や入場の時の各県の旗を持っているのも学生ですし、学生が関わるプログラムが幾つか組み込まれています。普段は服装を余り気にしないスウェーデンの学生たちも、この日はきちんと正装し、ノーベル賞受賞者と同じフロアでダンスを楽しむ姿はなかなか感動的です。

さて、ノーベル賞について私の知る限りでお話ししてきましたが、現在の形態に全く問題がないというわけには行かなくなってきた現状もあります。特に、医学や化学の分野では、世界中で同じテーマを同時進行で、しかも複数で研究していたり、また、長年にわたる研究の場合は過去一年という条件では選定しきれないという問題も増えてきているようです。文学では、いずれかのヨーロッパ語になっていない作品は、選定の対象になり難いし、翻訳の質も多いに影響するところです。女性の受賞者もまだまだ少ない



市場での色とりどりの花

ですし、受賞者の地域的な格差も否めないでしょう。それでも、ノーベル賞をノーベル賞たらしめ、20世紀をほぼ貫いて存続させ続けているのは、アルフレッド・ノーベルの世界市民としての意識、世界を普遍の言語で語ろうとしたその意志であり、21世紀もその意志の威厳はノーベル賞と共に続いていくのではないかと確信します。

(本稿は昨年11月5日に行われた講演会の資料から編集されたものです)

賞	ノーベル賞授与機関
物理学	スウェーデン王立科学アカデミー
化学	スウェーデン王立科学アカデミー
生理・医学	カロリンスカ医学研究所ノーベル会議
文学	スウェーデン学士院
平和	スウェーデン・ノーベル委員会
経済学	スウェーデン王立科学アカデミー

The Second Japan-Sweden Environmental Management Workshop

第2回 日本—スウェーデン、環境経営課題国際ワークショップ開催

(社)日瑞基金 専務理事 依田直也

Secretary General Dr. Naoya Yoda

◆はじめに

1999年11月18～19日の2日間、スウェーデン大使館にて日本とスウェーデンの環境政策と環境経営課題について討議するために、第2回国際シンポジウムが開催された。

この「国際環境ワークショップ・プロジェクト」は、30年前に日瑞基金が創立されて以来、わが国で初めて主催された事業企画である。とくに当日は、スウェーデン側からクムリン・スウェーデン大使や、ステンベリー大使館科学参事官はじめ、ストックホルム工業大学教授、ストックホルムのスウェーデンジャパン基金フリートウッド専務理事、スウェーデンの企業経営者や地球環境代表団の専門家が25名ほど出席された。

さらに日本側からは、環境庁太田企画調整局長をはじめ、東京大学山本教授ほか専門家70名が参加し、講演と討議が活発に行われた。

この国際会議は、昨年2月にストックホルムで開催された第1回地球環境シンポジウムに続く会議である。日本、スウェーデン両国の専門家による地球環境対策に関する意見や情報を交換し、さらには両国の協力関係の構築を目的として、日本—スウェーデン環境経営の国際ワークショップが開催される運びとなった。

◆国際ワークショップの内容

どのような製品・サービスをとっても必ず資源エネルギーを消費し、地球温暖化や資源枯渇化などわずかであっても環境に影響を与えている。このように深刻化する地球環境問題の抜本的な解決のためには、産業・経済活動のグローバルなグッド・ハウスキープングが必須である。広く受け入れられつつある、この認識に立って、その第1歩として企業経営、製品・サービスのライフサイクル全体にわたる適切な環境管理が必要である。

◆国際ワークショップの目的

その目的達成のために1993年以来、国際標準化機構(ISO)では、環境管理・監査の国際規格(ISO14000シリーズ)の作成作業を行っている。その中心的な考え方は、製品・サービス



右から、原禮之助日瑞基金理事長、クムリン・駐日スウェーデン大使、依田直也日瑞基金専務理事

の原材料の採取からリサイクル・廃棄の全段階にわたる温暖化、オゾン層破壊、資源枯渇化などの環境への全形跡(インパクト)を考慮したライフサイクルエンジニアリング環境と、継続的環境改善にある。このような理由から工業製品のライフサイクル全体にわたる環境インパクトの定量的評価法と工業製品の環境品質の定量的な表現法(エコラベル)が世界的な注目を集めている。

これは自由市場経済を通じて環境負荷を低減させるには、環境インパクト評価に基づき製品の環境配慮設計・生産を積極的に進め、一方、社会はこれら環境負荷の低減された製品の優先的な購入(グリーン調達)をすること以外に有効な方法が見当たらない。

今後エコラベルに基づくグリーン調達が、工業製品の市場競争力を決定するであろう事は確実である。ヨーロッパの環境先進国においては環境インパクト評価手法及びその環境配慮設計・生産への応用、及び、製品の定量的な環境品質情報表示について活発な活動が行われており、ポテンシャルが高い。スウェーデン等各国の研究、経験を調査することはきわめて重要である。

◆国際ワークショップ成果の活用

わが国は、学問の細分化等の影響を受け、社会科学と自然科学・工学の境界に位置する環境インパクト評価のような分

野の研究が極端に遅れている。スウェーデン、オランダ、ドイツ、スイス等の諸国はこの方面で先駆的業績を挙げており、基本的な考え方は社会に受け入れられている。

とくにスウェーデンは、環境インパクト評価手法の研究と応用については世界の最先端にあり、活発な事例研究が続いている。また、自動車メーカー、ボルボ社は環境インパクト評価を応用した自動車部品の設計・生産を行っている。また、スウェーデン産業連盟により製品の環境品質情報の定量的表示(ISOでは第3種のエコラベルと呼ばれている)について事例研究を進め、国際標準化作業では世界をリードしている。スウェーデンを中心として環境インパクト評価手法とその社会的応用について調査し、レビューする事は日本の学問・産業にとって大きなインパクトを与えらると思われる。

◆国際ワークショップの効果

スウェーデン、オランダ、ドイツ等で行われつつある環境インパクト評価、エコデザイン、エコラベル、脱物質経済、資源生産性の飛躍的向上等の新しい概念については、日本ではまだ十分に紹介されていない。

本会議では、スウェーデン代表団議長のヴィデル氏(ABB社環境担当)により、本ワークショップの目的として、日本とスウェーデンの環境政策と環境管理についての意見や情報

の交換、さらには今後両国の協力関係の構築にあることが述べられた。これに答えて日本側を代表し、(社)日瑞基金 原禮之助理事長から本ワークショップの日瑞技術交流の目的と開催の経緯などについて挨拶があった。本会議の討論の果実として、出席者の協力により、地球環境保護と世界環境標準設定のための目標を明確に打ち出すため具体案の提案があった。

21世紀に人類が生存できるためには、エネルギー資源は有限であり、枯渇問題にたいするリアリティの現実認識がきわめて乏しい。世紀末の1999年現在、地球レベルにおける環境保護に対する経営姿勢をはっきりさせるぎりぎりの時点まで来ている。そのためには、まず、エネルギーと物質を保護し友好に再利用するために真剣な対応策を早急に講ずる必要がある。



大使主催の歓迎ビュッフェランチ。大使公邸にて

Immigrant

小説「移民」

新妻ゆり

Ms. Yuri Nizuma

カール・オスカー、クリスティーナ、この名前を聞いたことがあるだろうか。彼らはヴィルヘルム・モーベリの作品『移民』の主人公である。この『移民』の世界について書いてみたい。これは『移民(国から出ていった者)』(1949)・『移民(外国から入ってきた者)』(1952)・『入植者』(1956)・『スウェーデンへの最後の手紙』(1959)の四部からなる大作である。

この農民の夫婦は、1850年代にスモーランドの小さな村からアメリカへと『移民』をする決心をする。土地が貧弱で作物が育たず、生活に行き詰まったためである。長男であるカール・オスカーは父親から土地を受け継ぐことができるが、次男ロベルトはそうはいかない。このような土地をもたない農民は、他の大きな農場で雇ってもらわなければならない。でも、不作になると解雇されることもある。彼らは安い賃金で長時間働かねばならず、労働条件はひどく、働けども働けども土地を買う程の金などたまるわけがなかった。

このような人々がアメリカへ渡る決意をするのである。耕した分だけ土地になる、法律で正しく裁いてもらえる、古いしがらみもなく自由に生きられる国アメリカ。飢え死にする恐怖と闘い続けるくらいなら、一か八か…そう思ったのだろう。

歴史の本によると、スウェーデンの人口は1800年には235万人、1835年には300万人を超え、1900年には500万人と増加していった。人口が増えるほど、土地を持たない農民が増え

ていく。そして1851年から1920年までの70年間に約120万人が移民していった。全人口の約四分の一である。

この『移民』が近年、スウェーデンでミュージカルとなった。曲を作ったのは、ベニー・アンデションとビョルン・ウルバエウスーそう、元ABBAのメンバー二人である。題名は『デューベモラから来たクリスティーナ(Kristina från Duvemåla)』。これはとても人気を呼んだ。1850—1920年といえば、自分たちの両親または祖父母が生きていた時代である。人口の四分の一、つまり四人にひとりには移民していったという計算になる。そのくらい、自分たちの身近な歴史を歌っているという思いが強いのだ、といろいろなスウェーデン人と話してみて感じた。この物語が以前にTVでドラマ化されていて、誰もがストーリーを知っていたことも人気の一因だったようだ。私もストックホルムで見たが、若者から老人まで、本当にいろいろな世代の人たちが見に来ていた。

この物語には、私達人間が一生の間に出会うドラマがたくさん詰まっている。恋、結婚、別れ、死、いさかい、友情、宗教、望郷、挑戦、失敗、落胆、絶望、喜び。同じ船でスウェーデンを出た人々が、アメリカに着くと様々な生き方をする。カール・オスカーは農民として、苦勞しながらもなんとか生活を軌道に乗せる。カール・オスカーにとって、アメリ



カール・オスカーとクリスティーナ

かにはスウェーデンにはなかった可能性があったのだ。その一方で、アメリカの生活に成功せず、スウェーデンに戻った者、みじめな死に方をした者もいた。

妻のクリスティーナはスウェーデンを離れたくなくて、アメリカに渡ってから常にもスウェーデンを恋しがっていた。この写真はスウェーデン南海岸の岸、

カールスハムンにあるカール・オスカーとクリスティーナの像である。カール・オスカーがしっかりと前を向いている横で、クリスティーナは後ろを振り返っている。

この作品は、残念ながらまだ日本語には訳されていないが、英語版は出ており、ペーパーバックにもなっている。この『移民』の物語は私達に生きた“時代”、生きた“スウェーデン”を見せてくれる。当時の様子については、スモーランドのベクショーにある移民博物館(Utvandrarnas hus)で詳しく見ることが出来る。また、スモーランド南のロンガシェー近くにあるクラサトルペットは当時の農村を再現した歴史村となっており、当時の生活の様子を伺い知ることができるようになっている。

苦難を乗り越えて進もうとした人々の姿には深い感動を覚えずにはいられない。

MUSIC SWEDISH CULTURE

スウェディッシュ・ポップ・ミュージック紹介

〈第1回〉カジ・ヒデキ

ここ数年スウェディッシュ・ポップのブームが訪れて以来、当研究所でのスウェーデン語講習会受講者の中にも、スウェーデンの音楽から語学に興味を持たれた方々の数が増えてきています。このコーナーでは、“Sweden”をキーワードとした音楽をご紹介します。最近では日本のミュージシャンのアルバムにおいても、実際にスウェーデンのプロデューサーやミュージシャンを起用している作品が意外に存在している様です。そんな本国スウェーデン内でも、なかなか聞くことのできないジャパニーズ・オリジナルのスウェディッシュ・ポップや、もちろん、スウェーデンのミュージシャンによるスウェーデン語や英語でのポップミュージック等もご紹介していこうと思いますので、みなさんも、お気に入りのアルバムや取り上げて欲しいアーティスト等ございましたら、御意見をお寄せください。

カジ・ヒデキ (Hideki Kai)

日本のポップでのスウェディッシュ・ポップ・シーンを紹介するにおいては最重要アーティスト！カジ・ヒデキさんです。昨年5月、スウェーデン大使館で行われたコンベンションの中では、カジさん自ら、その場に集まったレコード店の方々に前に、7月にリリース



カジ・ヒデキ
「15人の怒れる男達」
PSCR-5760 (ポリスター)

された3rdアルバム「15 angry men (15人の怒れる男達)」(PSCR-5760)の内容に関するトークと、当時先行シングルとしてカットされ、ファンタのTV-CFにも起用された曲「Mr.スウェーデン」をギター1本で披露。秋に行われたカジさんの日本全国

ツアーでは、アルバムにも参加しているフリー・ホイールやモーベッツといったスウェーデンのミュージシャン達もツアー参加のため来日。文字どおり「Mr.スウェーデン」らしいライブステージとなりました。カジさんはミュージシャンとして活躍する一方、多くの洋楽アルバムでのライナー・ノーツをはじめ、マガジンハウス発行の雑誌「Olive」においては98年1月から約2年間コラムの執筆もされ、そのスウェーデンフリークぶりはかなりなモノです。この3rdアルバム以前にも、1stアルバム「ミニ・スカート」、2ndアルバム「Tea」と2枚のアルバムがリリースされており、タンバリン・スタジオでの録音を含むこれらの作品すべての中に、トーレ・ヨハンソン氏とのプロデュースによるカジさん独自のスウェディッシュサウンドを聴くことができます。また、日本語や英語で唄われた歌詞にも、カジさん自身が実際にスウェーデンで体験したエピソードなどが網羅されており、「SIBYLLA」や「RAMLÖSA」といった様にタイトルを見ただけでも思い出深いスウェーデンの固有名詞を見い出せる作品となっております。最新作では、かつてから深い交流のあるニール&イライザの“イライザ”こと堀江博久さんと共にドッツ&ボーダーズを結成。カジさんのアルバムやツアーでもキーボードを担当する堀江さんは、昨年のカジさんのライブにおいても、かなりの人気を集めておりました。そして11月1日にリリースされた、この「トーキョー・テープス」(PSCR-5810)では、そんなカジさんと堀江さんの新しい一面も聴くことができます。



ドッツ・アンド・ボーダーズ
「トーキョー・テープス」
PSCR-5810 (ポリスター)

(text by Lyenne A.)

SPORTS

スウェーデンの一般的なスポーツと言えば、テニス、アイスホッケー、スキーなどまだ他にも色々あるが日本とさして変わらないだろう。そして忘れてはならないのがサッカーである。スウェーデンの子供たちも小さな頃から空地进行はボールを蹴っている。最近では、特に印象的なものは1994年でのアメリカワールドカップでの準決勝進出であろう。(惜しくもブラジルに敗れた)1998年のフランスワールドカップでは、予想外に予選敗退となってしまったが、1999年のFIFA(国際サッカー連盟)ランキングによると現在世界で16位である。スウェーデン国内では、AIK Stockholm, Helsingborg IF他14チームが今シーズンの1部リーグで戦いが繰り広げられている。ところで、スウェーデンのサッカーファンが心待ちにしているのが、今年6月10日から7月2日にかけて、オランダとベルギーで共同開催される欧州サッカー選手権(ユーロ2000)であろう。4年に1回のこの大会は初めての共同開催ということでも注目を集めていた。スウェーデン代表チームは、一部からはピークを過ぎたのではないかという声も聞こえてはいたが、イギリスやポーランドを含む第5グループの中で、8試合中7戦1分の予選無敗1位で突破した。ユーロ2000では、Bグループでありベルギー、イタリア、トルコと対戦することになる。比較的くじ運に恵まれた感はあるが、予選の様面に好調なスタートで進むかどうかは定かではない。特に

イタリアでの評価では、「体格のよさ足の速さなどフィジカルな面の強さを武器にした戦術が得意であるが、通常頭脳派のチームに比較的弱い」と言われている。また、ユーロ2000の栄えある開幕戦は、6月10日ベルギー・ブリュッセルのボードワンスタジアムにて開催国ベルギーが初戦相手である。その後、6月15日対トルコ、6月19日対イタリア、そして決勝は7月2日オランダ・ロッテルダムでのフェイエノールジュスタジアムにて行われる。ぜひスウェーデン代表の勇姿ある戦いぶりを応援し決勝へと勝ち進んでいただきたい。実はこの代表チーム選手のほとんどは現在海外のチームで活躍している。特に、海外の中でも世界最高峰と言われるイタリア・セリエAで活躍しているFWのKennet Andersson(LAZIO)には注目である。ご興味のある方は、情報満載の上記サッカー雑誌で今後のスウェーデン代表の活躍をご覧ください。(text by Matsumoto)



「ワールドサッカーダイジェスト」

月2回刊(第1・第3木曜日発売)
定価550円(税込)
日本スポーツ企画出版社

MOVIE



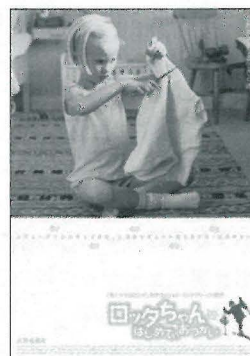
「太陽の誘い」 (Under the Sun)

短い夏のきらめきの中に、理屈では測れない男と女の惹かれ合う愛の深さと喜びを描き出す。1998年12月に本国で公開されるや、僅か6週間で観客動員数70万人突破の大ヒットを記録した、巨匠イングマル・ベルイマンの流れを汲む感動作。3月下旬から銀座シネ・ラ・セットにて上映。



「ロッタちゃんはじめのおつかい」 上映中!

前号でもご紹介しましたこの映画が「文部賞選定」作品に認定されました。また、映画の上映中に小さなお子さんをお預かりする「託児サービス付き上映」を実施しています。詳細は03-3248-1172(ヘラルド・エンタープライズ 担当:野村) 平日(月~金)10:00~18:00



講演会

JISS INFORMATION

「スウェーデン北部暮らし」

スウェーデン北部ÖstersundのMitthögskolan(日本人初)にfreemoverとして留学し、心理学を1年間専攻。極寒氷点下30度での生活、オーロラ、スウェーデン人とは、などこれからスウェーデンに留学しようとしている方は特に必聴です。

日時:2月25日(金)19:00~20:30
会場:当事務局イベントルーム
講師:中島優氏(横浜国立大学教育学部心理学専攻卒業)
参加費:会員無料、非会員500円
お問合せお申込は下記事務局まで。(予約要)

The Japan Institute of Scandinavian Studies



(社)スウェーデン社会研究所 事務局(松元・Matsumoto)
〒105-0013 東京都港区浜松町1-8-1(株)科学新聞社内5F
C/O Kagakushinbunsha, 1-8-1 Hamamatsucho, Minato-ku, Tokyo 105-0013 Japan
TEL:03-5776-1835 FAX:03-5776-1836 E-mail:jiss99@tkg.att.ne.jp
URL <http://www.sci-news.co.jp/sweden/>
月曜日~土曜日(水、日、祭日休) 10:30~17:30 Mon to Sat (Wed, Sun, Holiday close)